

瀬戸内少年野球団[青春篇]

三村晴彦監督作品

最後の楽園



あの子供たちが二十歳になった。—昭和31年。東京。

田原俊彦

鷺尾いさ子

黒崎輝

佐藤浩市

中村久美子

吉行和子

ケーシー高峰

小山明子



製作総指揮/古川博三 製作/阿久悠、原正人 原作/阿久悠(光文社文庫) 脚本/河本瑞貴、三村晴彦 製作協力/黒井和男 製作/ヘラルド・エース 配給/日本ヘラルド映画



瀬戸内少年野球団(青春篇) 最後の楽園

青春は祭りだ!
これでいい、
男と男、男と女。
祭りのあとは
ケ・セラ・セラ。



主人公・壮介(田原俊彦)は明治大学生として東京で下宿生活を送っている。そこへ故郷の淡路島から無二の親友・二郎(黒崎輝)が、ボクサーを目指して、転り込んでくる。二人にとって、どうにも気になるのは、十年前、淡路島を去って行方わからない美少女・菜木(鷺尾いさ子)の存在である。二人にとって菜木は思い出すだけで胸の熱くなるマドンナである。壮介にとっては、菜木が島を去る祭りの夜、大人になったら必ず再会を果たそうと誓い合った仲である。何かもうひとつ目的が見つからないまま学生生活を送っていた壮介にとって、菜木を捜し出し、再会することから、何かが始まるような気がしていた。同じ下宿に住む気のいいストリッパー・ミッキー・マッキー(中村久美)との関係、当時の若者としては段違いの青春を謳歌している太陽族の今西(長谷川恒之)と英子(篠山葉子)、得体の知れない劇団を率いる黒頭巾の



唐木(佐藤浩市)とその情婦・雪子(高沢順子、ジャズ・バー、ロックン・ロール、ダンス・パーティ、あの戦争が終わって10年、全く新しい文化が吹き荒れ始めた東京、全ての若者が自由に夢を抱き、未熟でありながら熱っぽく、はじらいがありながら、しっかりと格好をつけている。そんな時代と人々が菜木を捜す壮介の前にパノラマのように展開してくる。やがて菜木と再会を果たす壮介。菜木も

壮介のために処女を守り通してきたと云う。しかし菜木には逃れ切れない運命が迫っていた……。ノスタルジーではなく、文化と風俗の宝島のあの時代に現在に全く新鮮な私たちの愛と青春の夢が展開します。原作・製作は前作同様、阿久悠、監督は『天城越え』の三村晴彦。テーマ曲にビル・ヘイリーの『ロック・アラウンド・ザ・クロック』が鳴り響いています。

田原俊彦

阿久悠の分身ともいうべき明治大学生の襟は介役。デビュー7周年を迎え、数々の大イベントをくり広げたひとつが、この映画である。今までとはひと味違う本格的演技に挑戦し、阿久悠、三村監督も絶賛!何よりもスタッフ達が田原の打ち込みように感動した。日本映画界に待望されていた若手男優の誕生だ。



鷺尾いさ子

壮介、二郎に想われ続け、映画監督から女優に誘われ、青年実業家から求婚され、太陽族にさらわれるという、とにかく大変な美少女、マドンナの菜木役である。キャストिंग段階から、映画さながらの菜木役捜しが展開され、抜擢されたのが彼女である。すでにモデルとして活躍しているが、女優としても彼女の存在感と可能性は注目すべきものがある。



黒崎 輝

ボクサーを目指し、上京してくる壮介の無二の親友、バラケツの二郎役である。壮介同になって、一層愛すべき青年になった。壮介同様、マドンナ菜木を想う気持ちは二郎も変わらない。しかし、ある時、菜木を壮介に渡す二つの持つ誠実さ、ひょうきんさがベースとなつて、男気、男のダンディズムが見事に表現され、見る人を暖かくする。



●1月24日全ロードショー!

特別鑑賞券
一般1200円
学生1100円 発売中!

国電有楽町・マリオン9F

丸の内ピカデリー2 (201) 2881